

高 校生自慢の一品に ずらり行列

2月5日 南農マルシェ



南安曇農業高校の生徒が考案した商品などを販売するマルシェが市役所で開かれ、市と同校の連携事業「安曇野オリジナル商品開発プロジェクト」から生まれた商品が会場に並びました。当日は開始前から行列ができるほど多くの人でにぎわい、ワサビや信州サーモンなどを使った商品が人気を集めていました。

販売を担当した2年生の井上莉奈さんは「多くの人に来てもらえてうれしい。来年度はプロジェクトに挑戦するので商品化を目指したい」と力を込めていました。

蚕 の歴史に 思いをはせて

1月31日・2月1日 かいころく 工女編・蚕種編



劇団・安住の地による養蚕業をテーマにした演劇「かいころく」シリーズが安曇野市美術館で上演されました。新作の蚕種編は蚕と人間の歴史を描いており、脚本家の私道かびさんが今冬鐘の鳴る丘に滞在し制作しました。小規模ならではの劇は声も効果音もすべて生音。観客は、間近で演じられた蚕の卵にまつわる話に魅了されていました。観劇した柳沢永子さんは「実家が養蚕農家で近所から大勢お手伝いにきていたことを思い出した」と昔を懐かしんでいました。

ルール守ってウマくいく 安全を願って

1月24日 交通安全啓発活動



交通事故防止を呼び掛ける啓発活動がほりで一ゆ〜四季の郷で行われました。当日は本年の干支に合わせポニー2頭も登場。訪れた人はポニーと触れ合ったり、夜光反射材などが当たるガチャガチャに挑戦したりして交通安全の意識を高めていました。

啓発を行った安曇野交通安全協会の柄澤良一さんは「悲惨な事故を防ぐために、交通ルールを家族で確認してほしい」と呼び掛けていました。4月1日から始まる自転車の青切符制度は8ページで紹介しています。

これは何？ 古道具で感じる昔の暮らし

1月10日～2月1日 昔の珍道具展



明治から戦後にかけて活躍した珍しい道具を集めた冬季特別展が豊科郷土博物館で開かれました。手動洗濯機やゼンマイ式自動蠅捕器、トウモロコシ脱粒機など、今では見られなくなった道具7点がクイズ形式で展示され、正解を知った来館者は先人の知恵に驚きの表情を見せていました。

学芸員の窪田尚幸さんは「どれも昔の人々の生活が分かる貴重な財産。少しでも道具が持つ時代背景を感じてもらえたら」と話してくれました。

木 のぬくもりに 大人も子どもも夢中！

1月31日・2月1日 木育キャラバン in 安曇野

木のおもちゃに親しむ「木育キャラバン in 安曇野」(安曇野で木育を推進する会主催)が市役所で開かれました。会場には、さとぶろ。のあづみの積木キャラバン隊による積み木コーナーや東京おもちゃ美術館の協力で準備された木のおもちゃ約200種類などが並び、2日間で親子連れなど約1,700人が来場。参加者は木ならではの手触りや香りを感じながら、思い思いの遊び方で楽しみました。

親子でそれぞれ自分の背丈より高く積み木を積み上げていた村山栄治さん(51・松本市)は「木のぬくもりを感じられ、子どもの教育にもよい。大人も夢中になってしまった」と話し、娘の来瑠海さん(9)は「たくさん積み木があって、どんどん積めるのが楽しかった」と笑顔で木のおもちゃの世界を楽しんでいました。

**各** 地で暮らし安曇野へ 土地を知り感じる面白さを語る

1月24日 豊科図書館開館15周年記念講演会

作家・詩人の池澤夏樹さんの講演会が「きぼう」で開かれ、「みらい」で行われたパブリックビューイングを合わせて約250人が参加しました。池澤さんは、ギリシャ・沖縄・フランス・札幌などさまざまな土地で暮らし、令和4年に安曇野に。当日は「いま住むところと遠いところ」と題し、この地に移り住んだ理由と一番遠い南極へ旅した体験談などを語りました。「長野県の歴史を大切にしたい『文化的空気』が気に入っている。安曇野は川などの自然が近く、すべての面で満足している。これからはずっと暮らすでしょうからよろしくお願いします」とあいさつを交えながら講演しました。

松澤英さん(41・穂高有明)は「昔から好きだった池澤さんが近くに暮らしていて、その思いを身近で聞けて気分が高揚した」と翻訳書の星の王子さまを片手に話してくれました。

